

Title	可解群ニ関スルー注意
Author(s)	岩澤, 健吉
Citation	全国紙上数学談話会. 258 p.539-p.544
Issue Date	1943-10-25
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/75082">https://doi.org/10.18910/75082</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 1149. 可解群 = 関スルー注意

岩澤 健吉 (東大)

1. 群  $G = G_1$  / 交換子群  $\gamma G' = G_2$ ,  $G_2$  / 交換子群  $\gamma G'_2 = G'_2 = G'' = G_3$ , ----- 一般  $= G_n$  / 交換子群  $\gamma G'_n = G_{n+1}$  トシマス。コノトキ適當ナル  $n$  ニ對シ

$$G_n = 1 \dots \dots \dots (1)$$

トナルナラバ始メ、群  $G$  ヲ可解 (auflösbar) ト云フコトハ有限群論デ周知ノ通りデアリマスガ、我々ハ以下  $G$  ガ無限群ノ場合ニモ條件 (1) ヲ以テ可解ノ定義トスルコト = シマス。<sup>1)</sup>

サテ、以上ハ一般ノ abstract ナ群ニツイテノ話デアリマスガ今度ハ  $G$  ガ位相群デアル場合ヲ考ヘテ見マス。 $G_1$  / 交換子群  $G_2$  ハ abstract ナ意味デハ確カニ  $G_1$  ノ部分群デアリマスガ位相ヲ考ヘ=入レルト必ずシモ  $G_2 =$  於テ隔テテキマセン。(ソノ例ハ後ニ示ス) ヨツテ位相群トシテ、 $G_1$  / 交換子群トシテハ  $G_2$  / closure  $\overline{G_2} = G_2^*$  ヲトルコトガ適當ト思ハレマス。實際  $G_2^*$  ハ  $G/G_2$  ガ abel 群デアル様ナ  $G$  / 閉  $\gamma$  不変部分群  $\gamma$  ノ  $\gamma$  ナデ最小ノモノトナリマス。

ヨツテ  $G = G_1^*, G_2^*$  / 位相的交換子群  $\gamma G_2^*, G_2^*$  / 位相的交換子群  $\gamma G_3^*,$  ----- 一般  $= G_n^*$  / 位相的交換子群  $\gamma G_{n+1}^*$  トオクコト = シ, (1) ト同様ニ適當ナル  $n$  = 對シ

$$\phi_n^* = 1 \dots\dots\dots (2)$$

が成立スルトキ  $\phi$  を 位相的=可解 ト呼ブコト=シマス。

ソシテ (1) ノ場合ハコレ=對シ 代數的=可解 ト特=斷ハルコト=シマス。

サテ次ノ定理が成立チマス。

**定理1.** 位相群  $\phi$  が代數的=可解デアルコトト位相的=可解デアルコトトハ同等デアル。シカモ (1), (2) ハ同ジル=對シ同時=成立スル。

コレヲ証明スルタメ=一般ニ次ノ補助定理ヲ述ベテオキマス。

**補助定理1.**  $H$  を位相群  $\phi$  ノ、必ずシモ閉ゲテキタイ部分群トシ  $\overline{H}$  をソノ closure トスル。 $H$  ノ代數的交換子群列ヲ  $H_1 = H, H_2, H_3, \dots$  トシ、又  $\overline{H}$  ノ位相的交換子群列ヲ  $H_1^* = \overline{H}, H_2^*, H_3^*, \dots$  トスレバ

$$\overline{H_n} = H_n^* \quad (n=1, 2, \dots) \dots\dots (3)$$

**証明.**  $n=1$  ナルトキ

$$\overline{H_1} = \overline{H} = H_1^*$$

ハ定義=ヨリ成立スルカラ  $n=2$  關シ帰納法ヲ用ヒルコトトシ

$$\overline{H_{n-1}} = H_{n-1}^* \dots\dots\dots (4)$$

ヲ假定シテ (3) ヲ証明スルコト=シマス。定義=ヨリ

$$H_n = [H_{n-1}, H_{n-1}], \quad H_n^* = [\overline{H_{n-1}^*}, \overline{H_{n-1}^*}]^{(2)}$$

$$(4) = \text{ヨリ } H_{n-1} \subseteq H_{n-1}^*, \text{ 故ニ } H_n \subseteq [H_{n-1}^*, H_{n-1}^*], \text{ コ}$$

レオラ closure ヲトルバ  $\overline{H_n} \subseteq H_n^*$ . 又一方  $H_{n-1}/H_n$

abel 群デアルコトカラ結局  $\bar{g}_{n-1}/\bar{g}_n$  が abel 群デアルコトがワカリマスカラ

$[\bar{g}_{n-1}, \bar{g}_{n-1}] \subseteq \bar{g}_n$ , 即チ  $[g_{n-1}^*, g_{n-1}^*] \subseteq \bar{g}_n$   
closure フトレバ  $g_n^* \subseteq \bar{g}_n$ , ヨッテ (3) が証明サレ  
マシタ。

特ニ  $g = \mathfrak{g}$  フトレバ定理 1 フ得マスが特別ナ場合ト  
シテ又次ノ定理が得ラレマス。

定理 2.  $g$  フ位相群  $\mathfrak{g}$  ノ稠密ナ部分群トスレバ  $g$   
が代数的ニ可解デアルトキ  $\mathfrak{g}$  ハ又位相的ニ (又代数的ニ)  
可解デアル。

2. 上ノ定理ノ應用ヲ述ベテ見マス。ソノタメニ先ッ

補助定理 2. compact (bicomact) connected  
ナ可解群<sup>3)</sup> ハ abel 群デアル。

証明. ソノ様ナ群  $\mathfrak{g}$  が abel 群デナイト假定シ  
 $a, b \neq e$  ナル元  $a, b$  フトリマス。 $\mathfrak{g}$  ノ適當ナ連続有界  
表現  $D$  フトレバ  $D(a b a^{-1} b^{-1}) \neq E$ , 即チ  $D(a) D(b) \neq D(b) D(a)$  トナリマスカラ表現サレタ群  $D(\mathfrak{g})$  モ亦  
abel 群デハアリマセン。サテ一方  $D(\mathfrak{g})$  ハ compact  
connected ナ Lie 群デスカラ local ニハソレハ  
abel 群ト非 abel 單純群トノ直積デアルワケデスが  
今ノ場合  $\mathfrak{g}$  ハ (位相的ニ) 可解デスカラ非 abel 群ノ部  
分ハ存在シマセン。即チ  $D(\mathfrak{g})$  ハ local = abelian  
デアリマスが, ソレハ connected ナル故全体トシテモ

$abel$  群トナリマス。コレハ明カニ  $D(a)D(b) \neq D(a)D(b)$   
 = 矛盾シマス。

コレヲ用ヒテ

定理3.  $G$  ヲ十分多クノ概週期函数ヲ有スル可解群  
 トスル。但シ  $G$  = 位相ハ假定シナイ。  $G$  = 於テ指數  
 $[G: \mathcal{H}]$  が有限デアルマシナ凡テノ不変部分群  $\mathcal{H}$  ノ共  
 通部分群ヲ  $\mathcal{H}$ 。トスレバ  $\mathcal{H}$ 。ハ  $abel$  群デアール。

証明. 概週期函数ヲ用ヒテ  $G$  ヲ開テテ  $bicomact$  ナ  
 位相群  $\overline{G}$  ヲツクレバ  $G$  ハ  $\overline{G}$  = 於テ稠密ナ部分群トナリマ  
 ス。コノテ定理2ヲ用ヒレバ  $\overline{G}$  モ亦可解群デアールコトが知  
 ラレマス。  $\overline{G}$  ノ單位元ヲ含ム  $connected$  ナ  $component$   
 ヲ  $\mathcal{H}^*$  トスレバ  $\mathcal{H}^*$  ハ明カニ  $connected bicomact$  ナ  
 可解群, ヨツテ補助定理ニヨリ  $abel$  群デアリマス。一方  
 $\overline{G}/\mathcal{H}^*$  ハ 0-次元群ナル故  $\mathcal{H} \subseteq \mathcal{H}^*$ 。ヨツテ証明サレ  
 マシタ。

上ノ定理ハ逆ヲ考ヘテ見マスト可解ナ群  $G$  デ上ノ如  
 クニシテ作ツタ  $\mathcal{H}$ 。ガ  $abel$  群デアールマシナモノデアッテ  
 モ必ずしも十分多クノ概週期函数ヲ有シテキルトハ限リマ  
 ス。例ヘバ有理数  $a, b, c$  = ヨリツクアレタ。

$$\begin{pmatrix} a & c \\ 0 & b \end{pmatrix} \quad a \neq 0, b \neq 0$$

ノ如キ形ノ行列全体ノツクル群ハ、一例デアリマス。

3. 最後ニ代数的交換子群  $G_2 = G'$  ト位相的交換子群  
 $G_2^* = \overline{G'}$  が一致シナイ例ヲ一ツ挙ゲテオキマス。

有理数全体ノ加法群ヲ  $\mathcal{R}_0$ 、實数全体ノ加法群ヲ  $\mathcal{R}$ 、  
トシ  $\mathcal{R}_0 \subset \mathcal{R}$ 、トノ直和(直積)ヲ  $\mathcal{R} \oplus \mathcal{R}_0$  トシマス。

$$\mathcal{R} = \mathcal{R}_0 + \mathcal{R}_1$$

$\mathcal{R}$ ノ元ヲ一般ニ

$$A = (a, \gamma) \quad a \in \mathcal{R}_0, \gamma \in \mathcal{R}_1$$

トカフトヤ  $\mathcal{R}$ ノ自己同型  $\sigma$ ヲ

$$A^\sigma = (a, \gamma + a)$$

ニヨリ定義シ  $\mathcal{R}$ ヲ  $\sigma$ カヲ生成サレル自由環状群  $\{\sigma^n\}$

ニヨッテ拡張シタ群ヲ  $\mathcal{O}_\sigma$  トシマス。

$$\mathcal{O}_\sigma = \{\mathcal{R}, \sigma\}$$

サテ、 $\mathcal{R}_0, \mathcal{R}_1$ ニ普通ノ位相ヲ入レレバ  $\sigma$ ハ連続ト  
自己同型ナル故、コレヲ拡張シテ  $\mathcal{O}_\sigma$ ニ位相ヲ導入スルコ  
トが出来マス。(但シ  $\mathcal{O}_\sigma/\mathcal{R}$ ハ discreteトナル)。  $\mathcal{O}_\sigma$ ノ  
代数的交換子群ヲツクルト容易ニ面ヲレル様ニソレハ

$$\{(0, a), \quad a: \text{有理数}\}$$

ナル形ノ元全体トナリ、ソノ closure

$$\{(0, \gamma), \quad \gamma: \text{實数}\}$$

ト異ルコトがワカリマス。

註1) ユノ様ニ可解ノ定義ハ無限群ノ場合ニハ條件が強ス

ヤルヌヲデアリマス。實際、R. Baer 其ノ他、ソノ

エツトノ學者達ハモット拡張シタ意味ニ可解ト云フ言

葉ヲ用ヒテキマス。

2)  $[\cdot, \cdot]$ ハ交換子群ヲ示ス。

脚註3) 定理1 = ヨリ代数的 = 可解デヤリ同時 = 位相的 =  
可解デヤリマス。